

---

# 遊戯王GX 変態と呼ばれるモンスターを巧みに操る男

郭靖

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王GX 変態と呼ばれるモンスターを巧みに操る男

### 【Nコード】

N1071X

### 【作者名】

郭靖

### 【あらすじ】

彼は変態男と呼ばれるモンスターを気に入り、そのモンスターを中心とするデッキを作った。そしてデュエルアカデミアに入学しようと、頑張るのであった。

## 入学試験と黒竜使い

カードシヨップ久留類。ココに二人の少年がいた。一人は未知のカード、シンクロモンスターを巧みに操る国下双牙。もう一人は、デュエルモンスターズ初心者の元原二之介。二人は二之介がデュエルモンスターズを始めるので、パックを買いにきたのだ。

双牙はストラクチャーデッキを買わせたかったが、久留類にはストラクチャーデッキは売ってなかったのだ。

「なあ、一パック目は何のカードが出たんだ？」

「ん？えつと……戦士ダイ・グレファアーってやつだよ」

「ダイ・グレファアー！？よりによって、なんでそんな変態を当てちまうんだよ！！」

「え？ダイ・グレファアーって変態なの？でも僕は好きだな」

五枚入り150円のパックを10パック買い、出たのは、最初に  
出たのを含め《戦士ダイ・グレファアー》が三枚、《スピリット・ド  
ラゴン》が三枚、《ダーク・グレファアー》が三枚、《漆黒の魔王》  
が全レベル三枚ずつ、魔法カードは《破邪の大剣・バオウ》が三枚、  
《連合軍》が三枚、《士気高揚》が三枚、そして《神剣・フェニッ  
クスブレイド》が二枚、《融合》が二枚。罫は《炸裂装甲》が三枚、  
《二者一両損》が三枚、《決戦の火蓋》が三枚。そして融合モンス  
ター《ドラゴン・ウォリアー》が二枚、あとは《キノコマン》や《  
もけもけ》等、通常モンスターが数枚だった。

「……………」

「神様がダイ・グレファードデッキ作れって、言ってるのかな……」

「…………… そうだな。とにかくデュエルやるうぜ！」

「うんっ！いいよ！」

そして数年後、海馬ランドでは、二人の少年がいた。一人は未知のカード、シンクロモンスターとインフェルニティモンスターを巧みに操る国下双牙、もう一人はデュエルモンスターズでは、変態男の名で知れ渡っているダイ・グレファードを巧みに操る元原二之介。二人はデュエルアカデミアの入学試験を受けに来ていた。

「よしっ！デュエルアカデミア！絶対に合格してやるぜ！」

「僕もデュエルアカデミアに合格しないとね。さ、行くよ。双牙」

海馬ランドに入ると、二之介は自分の試験番号を確認した。95番、良くもないし、悪くもない数字だ。

「確か、双牙は5番だったな……。もう少し勉強してれば、よかつたな……」

『95番！デュエルリングに降りてきなさい！』

「……………早いな。とつとつと行っ」

そしてデュエルリングに降りると、サングラスを掛けた金髪のリーゼントの試験官がいた。隣を見ると、双牙が白い顔の教師とデュ

エルをしようとしていた。

「……ま、どうでもいいかな」

「では、行くぞ」

「あ、はい。分かりました」

「「デュエル！」」

「先攻は貰う！ドロー！《ライノタウルス》を召喚！ターンエンドだ」

試験官

LP4000

手札5

モンスター ライノタウルス（ATK1800）

魔法罫 無し

牛の頭の獣人が現れる。そこには、ATK1800と表示されていた。そして二之介のターンになった。

「僕のターン、ドロー。僕は《戦士ダイ・グレファア》（ATK1700）《》を召喚！」

「あ、あれは変態男だあああ！」

「きゃあああああ！変態男よおー！」

ダイ・グレファアが出た瞬間、非難の声が会場を覆った。勿論の

事、非難の声を聞いた二之介の顔は暗い。

「……僕は手札のカードを一枚墓地に送って、《破邪の大剣・バオウ》を発動、ダイ・グレファアーに装備（ATK1700 2200）、更に《神剣・フェニックスブレード》をダイ・グレファアーに装備します（ATK2200 2500）。バトル、ダイ・グレファアーで《ライノタウルス》を攻撃！双激斬！」

ダイ・グレファアーがバオウとフェニックスブレードをライノタウルスに振り下ろし、真つ二つにした。

「くっ！」（試験官LP4000 3300）

「カードを一枚伏せて、ターンエンドです」

元原二之介

LP4000

手札1

モンスター 戦士ダイ・グレファアー（ATK2500）

魔法罫 破邪の大剣・バオウ（ダイ・グレファアー装備） 神剣・フ

エニックスブレード（ダイ・グレファアー装備）

「私のターン……一つ聞こう。君はそんなネタデッキで勝てると思っっているのか？」

「そりゃ勝つつもりでいますよ。それにこのデッキはネタデッキでは、ありません」

「そうか……なら私に勝ってみなさい！私は《怒れる猿類人》を通常召喚！バトル！ダイ・グレファアーに攻撃！」

「……発動するカードは無い」

怒れる猿類人がダイ・グレファアーに突撃すると、ダイ・グレファアーは怒れる猿類人の攻撃を受け流し、怒れる猿類人の背中を切り裂いた。

「くううう！だが！自分フィールド上に存在する獣族モンスターが破壊され、墓地へ送られた時、1000ライフポイントを払って発動する事ができる！こい！森の番人グリーンバブーン！」（試験官LP3300 2800 1800）

『ガアアアアアアアアアアアアアアアアア！！』

デュエルリングを包む森が現れ、その森を掻き分け、巨大な大猿が現れた。

「グリーンバブーンでダイ・グレファアーに攻撃い！巨獣の一撃い！」

「あ、攻撃宣言時に、《炸裂装甲》を発動します」

『『『えっ？』『』』

ダイ・グレファアーが炸裂装甲を纏う。だが、グリーンバブーンの攻撃は止まらない。グリーンバブーンは、そのまま炸裂装甲を纏ったダイ・グレファアーを攻撃し、破壊された。

「……………ターンエンドだ」

試験官

LP1800

手札4

モンスター 無し

魔法罫 無し

「僕のターン。ドロ。ダーク・グレファアを召喚します。バトル、ダーク・グレファア、ダイ・グレファアの順番でダイレクトアタックします」

「うおおおおおおおおおお！」（試験官LP1800 100 - 2400）

「ありがとうございました。……さて、双牙は勝ったかな」

ふと、横を見ると、双牙のフィールドには、トリシューラが三体。白い顔の教師のフィールドも手札も、何も無かった。

「三体のトリシューラで攻撃！ホワイト・ゼロ！」

『『『キシャアアアアア！』』』

「マンマミーヤ！」

双牙も終わったようだ。そして双牙は手を挙げると、二之介も手を挙げ、お互いに手を叩く。

「やったな！二之介！」

「そっちこそ、やったじゃないか。双牙」



そして二人は肩を組んで、観覧席に向かった。

続いて、デュエルリングに降りてきたのは、赤い帽子を被った女の子だった。

「受験番号100番、葛木恋歌。アンタがオレの相手か？」

「ああ、そうだとも」

「じゃ！行くぜ！」

「デュエル！」

赤い帽子の女の子こと、葛木恋歌と試験官のデュエルが始まった。

「私のターン！私は《異次元の生還者》を召喚！そして《次元の裂け目》を発動！カードを二枚伏せて、ターンエンドだ」

試験官

LP4000

手札2

モンスター 異次元の生還者（ATK1800）

魔法罫 次元の裂け目 ????x2

（ふふふ……伏せカードは《奈落の落とし穴》と《聖なるバリアミラーフォース》だ。この布陣をどう突破する！）

「オレのターン！ドロー！オレは《大嵐》を発動！フィールド全ての魔法罫を破壊！《黒竜の雛》を召喚！更に《黒竜の雛》の効果

を発動！《黒竜の雛》を生け贄に捧げ、《真紅眼の黒竜》を特殊召喚！更に《強欲な壺》を発動！二枚ドロ！更に《二重召喚》を発動！《黒竜の雛》を召喚！《黒竜の雛》の効果が発動！《黒竜の雛》を生け贄に捧げ、《真紅眼の黒竜》を特殊召喚！更に《真紅眼の黒竜》を生け贄に捧げ、《真紅眼の闇竜》を特殊召喚！《真紅眼の闇竜》は墓地のドラゴン族一体につき、300ポイント攻撃力を上げる！墓地のドラゴン族は三体！よって《真紅眼の闇竜》の攻撃力は900ポイントアップする（ATK2400 3300）！バトル！《真紅眼の黒竜》（ATK2400）で《異次元の生還者》（ATK1800）を攻撃！メガフレア！

「くお！」（試験官LP4000 3400）

「《真紅眼の闇竜》でダイレクトアタック！」

「くおおおおおおお！」（試験官LP3400 100）

「ターンエンドだ」

試験官は手札を確認するが、勝てる法則が見当たらない。ドロカードが何かによって、勝敗が決まる。

「私のターン！ドロ！……くつ。サレンダーを宣言する」

試験官のドロしたカードは、《異次元の偵察機》。手札のカードに攻撃を止めるカードは無かった。

「……凄い強いな。あの娘」

二之介は恋歌の強さを心に刻み、その場を去っていった。

## 留学生と僕

「改めて……HEY！貴方が変態男ツカーイのモトユハラニノスケですネ！ワタシとデュエルしてくだサーイ！」

「……分かった」

二之介がデュエルアカデミアに来て、初のデュエルだった。

ことの始まりは、二之介と双牙がデュエルアカデミアに着いた時だった。

「ココがデュエルアカデミアか……よっし。やるか」

「Oh！どいてくだサーイ！」

「へ？」

二之介が飛行機を降りた瞬間、一台の自転車が二之介に突撃してきた。腰に自転車のハンドルが突き刺さった。自転車に乗っていた少女は二之介に駆け寄り、二之介の目の前に座った。

「すみません……ワタシの自転車、ブレーキが壊れてて……」

「大丈夫……目立つ怪我はしてないから……」

確かに、目立つ怪我はしていない。この時は、自分の体が頑丈だった事に感謝する二之介だった。、  
関係ないが、謝ってる女の子は、金髪のショートカット、そして

眼鏡を掛けていた外国人の女の子だ。

「それじゃあね」

「ホントにすみませんでした……」

そして二之介は入学式出た後、自信の寮であるオシリス・レッドの寮に向かった。

「ココがオシリス・レッドか……酷いな」

「お、お前もオシリス・レッドか。宜しくな、俺は遊城十代」

「僕は元原二之介だ。よろしく」

そして二人はレッド寮の食堂に向かった。

レッド寮の歓迎会は、所謂日本食がメインだった。メザシ、味噌汁、漬物、そして白飯。日本食の基本が揃っていた。

もぐもぐと黙って食べる二之介。他は楽しそうに喋っているが、仲の良い者がいないので、喋らなかった。

「ん？メールか。誰だろ」

メールは、双牙からだった。双牙が今日の夜に、万丈目と言う奴とデュエルするので、デュエルを見ないかと書かれていた。

二之介は行かないと、メールを返して、再び飯を食べ始めた。するとすぐにメールが来た。若干、苛々しながら、メールを確認した。

そこには、知らない誰かから、メールが来ていた。メールの内容は、「もとはらにのせけ！ワタシとデュエルしなそい！開眼で待つてなさう！」と何かよく分からないメールが届いた。恐らく、日本語が苦手な外国人がメールしてきたのだろう。

「ま、無視すればいいか」

そして再び飯を食べ始めた。そして暫くして、食べ終わったら、再びメールが来た。「はらく来なさい！」、また日本語が苦手な外国人から、メールが来た。

「なんだよ。コイツ……」

若干、気味が悪かったが、取り敢えず、無視して部屋に帰った。二之介の部屋は一人部屋なので、ゆっくりと気にせず、時間を過ごせた。そして数十分語、突如部屋のドアを突き破り、誰かが入ってきた。そいつは今朝、自転車で突撃した外国人の女の子だった。

「アナタ！なんでメールを無視したデスカ！」

「いや、メールを返す理由は無いです……」

「キイイ！いいからデュエルしなサイ！ソウガが認めるデュエリストが、どんな者が確かめたいのデス！！だから、とっととデュエルの準備をしなさい！」

また双牙か、と思いながら、仕方ないので二之介はデュエルの準備を始める。そして準備を終えると、レッド寮前でに移動した。

「改めて……HEY！貴方が変態男ツカーイのモトユハラニノスケ

ですネ！ワタシはチェコル・マーキシニン！ワタシとデュエルしてください！」

「……分かった」

ふいんきが大事だと、言い、二之介が外国人の女の子改め、チェコルを呆れながら、デュエルディスクを構え。

「デュエル！」

「先攻は貰う！ドロー！漆黒の魔王LV4を通常召喚！更に手札を一枚捨てて、破邪の大剣・バオウを発動！漆黒の魔王LV4に装備！漆黒の魔王LV4は500ポイント、攻撃力がアップする！カードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP4000

手札2

モンスター 漆黒の魔王LV4 (ATK1500)

魔法罫 破邪の大剣・バオウ (漆黒の魔王LV4装備) ???

「来ましたネ！変態男魔王バージョン！ワタシのターン！ドロー！」

またダイ・グレファアを変態男と呼ばれ、イラツと来た二之介だが、いらつきはデュエルで晴らすことにして、チェコルの方に意識を集中させる。

「ワタシは《白い忍者》を召喚！更にカードを一枚セット！ターンエンドです！」

チエコル・マーキシニン

LP4000

手札4

モンスター 白い忍者（ATK1500）

魔法罫 ????

「僕のターン！ドロー！」

（……僕のモンスターと攻撃力が同じモンスターを攻撃表示か……そうになると、あの伏せカードは攻撃反応型の罫か召喚反応型の罫の可能性が高いな……。もしくは攻撃力上昇型の罫の可能性がある。手札には、あの伏せカードを破壊するカードはない……。だったら、わざと罫に掛かって、伏せカードを消費させるか？……状況を見る限り、攻撃反応型の罫の可能性が高い……。一応、牽制として攻撃してみるか）

「僕は戦士ダイ・グレファア（ATK1700）を通常召喚！バトル！ダイ・グレファアで白い忍者（ATK1500）に攻撃！竜滅斬！」

「攻撃宣言時にリバーズカード！オープン！」

ダイ・グレファアが大剣を構え、赤い忍者を切り裂かんとするが、赤い忍者の身体が、ぐちゃぐちゃになり、巨体な蠃螂の姿になった。

「永続罫《忍法 変化の術》。ワタシのフィールドの《忍者》という名のついたモンスター1体を生け贄に捧げて発動。選択したカードのレベル+3以下の獣族・鳥獣族・昆虫族のいずれかのモンスター1体を手札またはデッキから自分フィールド上に特殊召喚します。そしてワタシが特殊召喚したモンスターはヴァリアブル・アーマ

ー（ATK2350）デース。アタックしますか？」

「アタックはしない……メイン2でカードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP4000

手札1

モンスター 漆黒の魔王LV4（ATK1500） 戦士ダイ・グ

レファアー

魔法罫 破邪の大剣・バオウ（漆黒の魔王LV4装備） ???×2

「ワタシのターン！ドロー！ワタシは《速攻の黒い忍者》（ATK1700）を通常召喚！更に装備魔法《風魔手裏剣》を発動！速攻の黒い忍者に装備でス！風魔手裏剣は「忍者」という名のついたモンスターのみ装備できマス。装備モンスターは攻撃力が700ポイントアップします。そしてこのカードがフィールド上から墓地に送られた時、相手ライフに700ポイントダメージを与えるのでス！バトル！まずは速攻の黒い忍者（ATK2400）で漆黒の魔王LV4を攻撃！風魔！手裏剣投げ！」

「速攻の黒い忍者の攻撃宣言時にトラップ発動！炸裂装甲！その効果により、速攻の黒い忍者は破壊される！」

巨大な手裏剣を構え、速攻の黒い忍者は漆黒の魔王LV4に突撃する。それと同時に速攻の黒い忍者の攻撃にカウンターをする。そして速攻の黒い忍者は爆発した。

「チツ、だけど、風魔手裏剣の効果発動！あなたに700ポイントのダメージを与えマス！更にヴァリユアブル・アーマー（ATK



2350)で漆黒の魔王LV4(ATK1500)を攻撃!」

「……発動するカードはない。攻撃は受けよう」

元原二之介 LP4000 3300 2450

「カードを伏せて、ターンエンドです!」

チエコル・マーキシニン

LP4000

手札2

モンスター ヴァリアユアブル・アーマー

魔法罫 忍法 変化の術 ????

「僕のターン、ドロ。強欲な壺を発動。カードを二枚ドロ!…  
よし、僕は手札から《融合》を発動!場のダイ・グレファアと手  
札の《スピリット・ドラゴン》を融合!融合召喚!」

ダイ・グレファアとスピリット・ドラゴンは、その場から消え、  
龍の鎧を着る戦士が現れる。その戦士は一度、剣を縦に振り、横に  
振ると、今度は二回、正面に突きをした。

「来い!《ドラゴン・ウォリアー》!!バトル!ドラゴン・ウォリ  
アー(ATK2000)でヴァリアユアブル・アーマー(ATK23  
50)を攻撃!」

「ふんっ!ヴァリアユアブル・アーマー!返り討ちにしなさい!」

「それじゃあダメージステップ時にリバースカードオープン!速攻  
魔法《収縮》!僕はヴァリアユアブル・アーマーを選択。選択したモ

ンスターの元々の攻撃力はエンドフェイズ時まで半分になる！よつてヴァリユアブル・アーマーの攻撃力は1175になる！バトル続行！行け！竜魂斬りゅうこんざん！」

「What!?!」

ドラゴン・ウォリアーがヴァリユアブル・アーマーに襲い掛かるが、剣を鎌に弾かれてしまう。だが、ヴァリユアブル・アーマーの身体が小さくなり、そこを狙いドラゴン・ウォリアーはヴァリユアブル・アーマーを切り裂いた。

「中々、やりますね……」(チェコル・マーキシニンLP4000  
3175)

「カードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP2450

手札 無し

モンスター ドラゴン・ウォリアー(ATK2000)

魔法罫 ????

「ワタシのターン！ドローです！ワタシは強欲な壺を発動！デッキから、二枚ドローです！更に《おろかな埋葬》を発動！赤い忍者を墓地に送りまーす！伏せていた《浅すぎた墓穴》を発動！ワタシは赤い忍者をセット！」

「……僕は漆黒の魔王LV4をセットする」

「続いて、ワタシは通常魔法《太陽の書》を発動！裏側守備のモン

スターを表側攻撃表示に変えマース！ワタシは赤い忍者を反転召喚！赤い忍者の効果発動！フィールド上に存在する畏カード1枚を選択して破壊しまース。選択したカードがセットされている場合、そのカードをめくって確認し、畏カードなら破壊します。魔法カードの場合は元に戻すんデース。ワタシはアナタの伏せカードを選択しまース！忍法！畏見破りの術！」

二之介の伏せカードが開かれ、その姿があらわになる。二之介の伏せていたカードは、二枚目の炸裂装甲だ。

「よっし！炸裂装甲破壊でース！更にワタシは命削りの宝札を発動しまース！手札を5枚になるようにドローしまース！5ターン後すべての手札を墓地に置く！赤い忍者を生け贄に捧げて、《渋い忍者（ATK2300）》を生け贄召喚でース！更に手札から、通常魔法《火炎地獄》……またの名を忍法 火遁の術を発動！アナタに1000ポイントのダメージを与え、ワタシに500ポイントのダメージを与えまース！」

元原二之介 LP3150 2150

チエコル・マーキシニン LP3175 2675

「バトル！渋い忍者でドラゴン・ウォリアーを攻撃！銀の鎖！」

渋い忍者が銀色の鎖をドラゴン・ウォリアーに投げつけると、鎖はドラゴン・ウォリアーに巻き付き、鎖を引っ張り上げると、ドラゴン・ウォリアーを破壊した。

「くっ……」(元原二之介 LP1850)

「ターンエンドです！」

チエコル・マーキシニン

LP2675

手札3

モンスター 渋い忍者 (ATK2300)

魔法罫 無し

「僕のターン！……ターンエンド……だ」

元原二之介

LP1850

手札1

モンスター 裏側守備(漆黒の魔王LV4)

魔法罫 無し

「ワタシのターン！ドロー！バトル、渋い忍者で裏側守備モンスターに攻撃！銀の鎖！」

渋い忍者が再び、銀色の鎖を投げつけると、裏側守備モンスターの姿を現し、漆黒の魔王LV4を破壊した。

「ターンエンド！」

チエコル・マーキシニン

LP2675

手札4

モンスター 渋い忍者 (ATK2300)

魔法罫 無し

「……僕の……ターン！ドロー！……！僕はカードをセット！モンスターをセット！ターンエンド！」

元原二之介

LP1850

手札0

モンスター 裏側守備

魔法罫 ????

「ワタシのターン！ドロー！忍者マスター SASUKEを召喚！バトル！渋い忍者で裏側守備モンスターを攻撃！銀の鎖！」

渋い忍者が裏側守備モンスターに攻撃すると、壺のようなモンスターを破壊した。

「破壊されたモンスターはメタモルポット！お互いに手札を全て捨てて、五枚ドロー！」

「ワタシも五枚ドロー。……チツ、忍者マスター SASUKEでダイレクトアタック！」

元原二之介 LP1850 50

「ターンエンドです！」

チエコル・マーキシニン

LP2675

手札5

モンスター 渋い忍者 (ATK2300) 忍者マスター SAS

UKE(ATK1800)

魔法罫 無し

「僕のターン！ドロー！どうやら、今回の勝負は僕の勝ちみたいだな」

「え？」

二之介は思わず、にやけてしまう。それを不思議そうにチエコルは見る。

「僕は《おろかな埋葬》を発動！デッキから《漆黒の魔王LV8》を墓地に送る！更に手札から、カードを一枚墓地に送り、《ライトニング・ボルテックス》発動！相手フィールドの表側表示モンスターを全て破壊！」

「What!？」

雷がチエコルのフィールドに降り注ぐ。暫くして、雷が止むと、チエコルのモンスターは全て破壊されていた。

「これで終わりだ！通常魔法！《死者蘇生》！墓地の《漆黒の魔王LV8》を特殊召喚！」

巨大な大柄の悪魔が現れる。その姿は、漆黒の魔王LV4とは、比べにならないほど邪悪で巨大だった。

「バトル！漆黒の魔王LV8でダイレクトアタック！ダークネス・ルシファス！」

漆黒の魔王LV8がチエコルに手を翳すと黒炎が悪魔の形になり、

チエコルを襲った。

「きゃあああああああ！！」（チエコル・マーキニン LP  
2675 - 125）

デュエルが終わると、デュエルディスクが機能を停止する。

「これで満足か？」

「……はい、ありがとございまシータ。ソウガが認める力が分かった気がするです」

そう言い、チエコルはオベリスク・ブルーの女子寮に帰っていった。

そして二之介も、自身の寮であるレッド寮に帰った。

留学生と僕（後書き）

次回、二之介VS関西人



## とら虎

「ニノスケ、アナタはドローパーン何が当たった？」

「ん？……塩パン」

「何それ怖い」

昼休み。二之介は、チエコルと共にドローパーンを買に行っていた。

一昨日のデュエルで二人は仲良くなり、二人でドローパーンを買に行く程の仲になっていた。一番の理由はチエコルは女子ブルー寮に友達と呼べる人間がいないからだ。つまりチエコルはぼっちなのだ。

チエコルの友達に双牙がいるが、双牙は今、他の奴らと飯を食べているので、必然的に二之介が誘われたのだ。

「なんやとお！お前、日頼ファルコンズファンなんか！？」

「へ、そうだけど……」

「なら敵や！お前は俺の敵や！タイガーズの敵は俺の敵や！」

騒がしい声を気になり、二人は声の方向を見る。すると声の主は、ライエローの制服を改造し、虎柄にしてる生徒と普通のライエローの生徒がいた。

「なんだよ……アレ」

「ワタシが知るはずありません」

そして二人は、再びドローパンを食べはじめた。無論の事、二之介がドローパンを買い直した。

そして昼休みが終わり、授業になった。授業の担当はコンマイ語の授業の為、担当は先日、二之介が倒した試験官、ト部つべ鳥也とりなりだった。

「だからして、《ガスタ・ガルド》は生け贄召喚の為の生け贄にした場合、効果は発動しない。この問題は今月の試験に出るから、ノートに書き取るように」

「よっしゃああああ！やったでタイガーズ！行け！もっと伸びるんや！あー！このダボ！こんな時にミラクルプレーなんてすな！畜生！」

突如、叫び声が静かだった教室にこだまする。それに反応し、二之介がキレた。

二之介が飛び上がり、声の主に目掛けて、蹴りを入れる。それに驚くト部と生徒達（一部を除く）。二之介の蹴りは、声の主は興奮していたせいか、顔面に直撃し、鼻血が出る。

「なんや！てめえ、わいになんか恨みあんのか！！」

「うるせーんだよ！こっちは真剣に勉強してるつつうのに、携帯テレビで野球観戦しやがって！」

「大阪タイガースの初の海外プレーヤーで！生で見いひんでどないするんや！」

「五月蠅い！僕は大阪タイガースより、千葉インヴェルズの方が好きだ！」

千葉インヴェルズ。その言葉を聞いた瞬間、関西人の何かがキレた。

「千葉インヴェルズやと！？大阪タイガースの永遠のライバルやないか！そうか！ならお前も俺のライバルや！」

「んなもん知るかつ！とりあえず、黙れ！」

「その前に、お前達が黙れ。それと阪神と元原は後でレポートを20枚書いて、提出しろ。期限は一週間だ」

「なんですと！？」「なんやと！？」

二人とも同時に驚き声を上げた。その姿を見たチェコルと双牙はホントに馬鹿だな、と心の中で苦笑した。

放課後、二之介はチェコルと共にデュエルのレポートを書いていた。レポートに書くことは、最近のデュエル内容を10戦分書くこと、コンマイ語の注意すべき事、以上の事をレポート20枚分書くことだ。

「デュエルの方はチェコルと十代、双牙に頼めばいいな」

「そうネ。ワタシとしても、ジユウダーイの実力を見ておきターイですからネ」

「関係ないが、なんか今のお前、非常にインチキ外国人っぽいぞ」

「What!？マジですか!？」

目を丸くして、驚くチエコル。それに馬鹿にしたような顔で二之介は笑っていた。

「てめえ！ココにいたのか！さっきの決着つけるで！」

突如、先程二之介と喧嘩した関西人が現れた。二之介は、それに反応しない。別に喧嘩したくて、喧嘩したわけでは無いので、無視したのであった。

「五月蠅い。僕は今からレポートを書かないといけないんだ。それにデュエル数が足りないから、チエコルとデュエルしないと行けないし」

「なら、わいとデュエルや！わいもデュエル数、足りひんからな！はっはっは！」

若干、気に食わなかったが、関西人の言っていることが正しいので、二之介は素直に従った。

「そうだね。やろうか。僕は元原二之介だ。よろしく」

「わいは阪神大賀や。よろしゅうな」

そして二人はデュエルディスクを構え。

「デュエル！」

「先攻はわいや！わいのターン！ドロ！わいは《王虎ワンフー》を通常召喚！更に通常魔法《二重召喚》を発動や！《二重召喚》の効果により、わいはこのターンもう一度、通常召喚が可能になる！出てきや！《Vタイガー・ジェット》を通常召喚！カードを一枚伏せて、ターンエンドや！」

阪神大賀

LP4000

手札2

モンスター 王虎ワンフー（ATK1700） Vタイガー・ジェット（ATK1600）

魔法罫 ????

「僕のターン、ドロ。僕は戦士ダイ・グレファアを通常召喚！神剣・フェニックス・ブレードをダイ・グレファアに装備！バトル！ダイ・グレファア（ATK2000）で王虎ワンフー（ATK1700）を攻撃！滅竜斬！」

ダイ・グレファアが突撃すると、王虎ワンフーはそれにカウンタ―し、その鋭利な爪で襲い掛かるが、ダイ・グレファアは紙一重で爪を避け、王虎ワンフーの脳天に神剣・フェニックス・ブレードを突き刺した。

「ちい！だけど、ダメステ時に《ガード・ブロック》を発動！この戦闘によって発生するわいへの戦闘ダメージは0になり、わいはカードを1枚ドロする！」（阪神大賀LP4000）

「……王虎ワンフーを破壊できただけいいか。僕はカードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP4000

手札3

モンスター 戦士ダイ・グレファア（ATK2000）

魔法罫 神剣・フェニックス・ブレード（ダイ・グレファア装備）

???

「わいのターン！ドロー！わいは《タイガー・アックス》を召喚！更に《団結の力》をVタイガージェットに装備！装備モンスターの攻撃力・守備力は、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体につき800ポイントアップするで！更に《魔導師の力》をVタイガー・ジェットに装備！装備モンスターの攻撃力・守備力はわいのフィールドに存在する魔法・罫カード1枚につき、500ポイントアップする！カードをセットして、バトル！Vタイガー・ジェット（ATK4700）でダイ・グレファア（ATK2000）に攻撃！タイガー・ジェットアタック！」

空中に舞い上がり、Vタイガージェットはそのままダイ・グレファアに突撃する。

「あ、攻撃宣言時に《炸裂装甲》を発動。Vタイガー・ジェットを破壊」

「え？」

ダイ・グレファアが炸裂装甲を纏うが、Vタイガー・ジェットは

止まらない。と言うか、止められなかった。あまりにもスピードを出し過ぎた為、ブレーキが効かず、そのままVタイガー・ジエットはダイ・グレファアーに突撃すると、破壊された。

「ぐっ……。伏せた《泉の精霊》を発動。わいの墓地の装備魔法を手札に加える。わいは団結の力を手札に加えて、ターンエンドや」

阪神大賀

LP4000

手札1（団結の力）

モンスター タイガー・アックス

魔法罫 無し

（……………装備魔法を多様しないデッキじゃないと、まず絶対に使わない泉の精霊を使ってるって事は装備魔法中心のデッキか。それにさつきから、コイツ、虎かタイガーと名のついたモンスターしか使ってる。と言うことは、虎とタイガーと名のついたモンスター中心の装備魔法デッキか。手札に団結の力もあるらしいから、タイガー・アックスは破壊しないとな）

「僕のターン、ドロ。僕は《ダイクグレファアー》を召喚！バトル！ダイクグレファアー（ATK1700）でタイガー・アックス（ATK1300）に攻撃！暗黒斬！」

ダイクグレファアーがタイガー・アックスに近づき、持っていた大剣で斬ろうとするが、斧で防がれる。そして2体は力比べを始め、ダイクグレファアーは斧ごとタイガー・アックスを叩き斬った。

「ちい！」（阪神大賀LP4000 3600）

「続いてダイ・グレファアードでダイレクトアタック！」

「ぐう！」（阪神大賀LP3600 1600）

「カードを一伏せてターンエンド！」

元原二之介

LP4000

手札2

モンスター 戦士ダイ・グレファアード（ATK2000） ダークグ

レファアード（ATK1700）

魔法罫 神剣・フェニックス・ブレード（ダイ・グレファアード装備）

????

「わいのターン！ドロー！モンスターをセット！ターンエンドや！」

阪神大賀

LP1600

手札1（団結の力）

モンスター ????

魔法罫 無し

「僕のターン、ドロー。バトル！ダイ・グレファアードで裏守備モンスターを攻撃！滅竜斬！」

ダイ・グレファアードが裏守備モンスターに攻撃すると、神剣・フェニックス・ブレードが弾かれる。そのモンスターは薄い青色の姿をした虎だった。

「裏守備モンスターは魂虎ソウルタイガー（DEF2100）や。反射ダメージと



して1000ポイント受けてもらう。攻撃力上昇系カードがない限り、バトルフェイズ中の魂虎の破壊は無理や」

「……ターンエンド」(LP4000 3900)

元原二之介

LP3900

手札3

モンスター 戦士ダイ・グレファア(ATK2000) ダーク・

グレファア(ATK1700)

魔法罫 神剣・フェニックス・ブレード(ダイ・グレファア装備)

?????

「わいのターン！ドロー！ターンエンド！」

阪神大賀

LP1600

手札2(内一枚は団結の力)

モンスター 魂虎

魔法罫 無し

「僕のターン！ドロー！カードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP3900

手札3

モンスター 戦士ダイ・グレファア(ATK2000) ダーク・

グレファア

魔法罫 神剣・フェニックス・ブレード

「わいのターン！よしっ！強欲な壺を発動！カードを二枚ドロー！よっしゃ！わいは魂虎を生け贄に捧げ、《タイガー・ドラゴン（ATK2400）》を生け贄召喚！更に《ファイティング・スピリッツ》を発動！タイガー・ドラゴンに装備！ファイティング・スピリッツは相手モンスターの数×300ポイントアップ！更に《拘束解放波》を発動！装備魔法を一枚選択し、選択した装備魔法と相手のセツトした魔法罫を全て破壊する！」

タイガー・ドラゴンが自身に纏うファイティング・スピリッツを解放し、二之介のセツトカードを全て破壊した。

「くっ！」

破壊されたカードは炸裂装甲。このカードさえ破壊されなければ、タイガー・ドラゴンを破壊できただろう。

「更に《団結の力》をタイガー・ドラゴンに装備！バトル！タイガー・ドラゴン（ATK3200）でダーク・グレファアー（ATK1700）に攻撃！タイガー乱舞！」

タイガー・ドラゴンは口を大きく開け、ダーク・グレファアーに噛み付こうとするが、ダーク・グレファアーは、それを避ける。だが、タイガー・ドラゴンの爪がダーク・グレファアーを切り裂いた。

「くっ！」（元原二之介 LP2500）

「ターンエンドや！」

阪神大賀

LP1600

手札0

モンスター タイガー・ドラゴン

魔法罫 団結の力(タイガー・ドラゴン装備)

「僕のターン！ドロー！……駄目か。ダイ・グレフアーを守備表示に変更して、カードを一枚セットして、ターンエンド」

元原二之介

LP2500

手札3

モンスター ダイ・グレフアー(DEF1600)

魔法罫 神剣・フェニックス・ブレード ????

「わいのターン！ドロー！王虎ワンフーを通常召喚！モンスターが増えた事により、タイガー・ドラゴンの攻撃力が800ポイントアップ！バトル！王虎ワンフー(ATK1700)でダイ・グレフアー(DEF1600)に攻撃！虎王撃！」

王虎ワンフーが爪をダイ・グレフアーに食い込ませ、その鋭利な牙でダイ・グレフアーの喉を噛み切った。

「壁は無くなった！バトル！タイガー・ドラゴンで止め！」

タイガー・ドラゴンが二之介に止めを刺そうと、口を大きく開け、噛み付いた。

「よっしゃ！第三部完！」

「おいおい、僕が倒れたら、誰が主人公なんだ？」

「なっ!? なんで!?!」

ライフポイントが0になったはずの二之介のライフは100だけ残っており、伏せていたカードがオープンされていた。

「攻撃宣言時、速攻魔法サイクロンを発動させてもらったよ。サイクロンはフィールド場の魔法罫を一枚破壊する。だから僕は団結の力を破壊した。それによってタイガー・ドラゴンの攻撃力はダウンして2400に戻ったから、ダメージがダウンした。分かった?」

「ちっ! ターンエンド!」

阪神大賀

LP1600

手札0

モンスター タイガー・ドラゴン (ATK2400) 王虎ワンフ

1 (ATK1700)

魔法罫 無し

「僕のターン! ドロー! 《ライトニング・ボルテックス》を発動! 君のフィールド場のモンスターを全て破壊する!」

「なんやて!?!」

雷が大賀のフィールド場に注ぐ。すると、モンスターは一体も残らず、破壊された。

「僕はダイ・グレファアを通常召喚! バトル! ダイ・グレファアでダイレクトアタック! 滅竜斬!」

「みぎゃあああああー!!」(阪神大賀 LP16000)

ダイ・グレファアが大きく剣を振り上げ、大賀切り裂き、ライフポイントを0にした。

「…………お前、強いな」

「そりゃそうさ。僕は勝つつもりでデュエルをやったからね」

そう言い、二人は見つめ合い、手をがちりと掴み、握手する。

「元原二之介だ」

「わいは阪神大賀や」

そして二人は顔が思わず、にやけてしまった。

「ワタシも混ぜてください！チェコル・マーキシニンでース！よろしくネ、タイガ」

三人は声を上げて笑った。こうして、デュエルアカデミア大馬鹿トリオが結成されたのであった。

## 月一試験VS双牙(前書き)

物語の展開上、女子レッド寮と女子イエロー寮を作りました。



「へっ！なら一緒に地獄に落としてやるわ！」

「Come with us to hell!（私達と一緒に地獄に来いよ!）」

二之介は人差し指を二人に立て、大賀とチエコルは中指を立て、二之介を挑発する。まさに一触発。尤も、バトル漫画みたいな展開には、ならないので問題児トリオは座り、勉強を始めた。

そして三日後。ついに月一試験が始まった。試験の内容は基本的なデュエル知識から、応用問題、詰めデュエル等が出ていた。そして暫く、試験が続き、結果。

「鬱だ。死のう……」

「同じく……。Depression's suicide……」

「あー眠いわ……。勉強も全然分からんし……」

「貴様はやれば出来るんだろうが！んで、真面目にやらねえんだよ！！」

三馬鹿は完全に撃沈したのであった。尤も、大賀はやれば出来るので、やらなかったただけだが。

「こうなったら、実技で挽回してやる！今日は新しいパックを発売するらしいし、それを買ってデッキを強化してやる！」

「Yes!!!その意見に大賛成でス!!!」



そして購買部に向かうと、大量の生徒が誰かにブーイングしていた。その誰かは、黒いマントと黒い帽子の何処かの悪魔召喚師を思わせる格好をしたおっさんだった。

「カ、テメエは何してくれとんじゃ！ゴリア！」ペペロンチーノ！  
？」

黒い男にヤクザキックをかまし、カードが買えなくなった怒りをぶつけた。二之介に続き、チエコル、大賀も蹴りを黒い男にかます。

「オラオラオラ！！」

「よく分らんが、恨みを果たさせてもらおうで！」

「Damn This shit bastard! Nante  
s Temee Die!」

大賀には、気まぐれで蹴りを入れられ、チエコルには、英語で罵倒され、二之介には、足で頭を踏み潰され、黒い男は馬鹿な真似をしたノーネと、心の中で後悔した。

「あ！あんな所に空飛ぶオシリスがいるノーネ！」

「「「なんですと!?!」「」」

三馬鹿は黒い男が適当に吐いた嘘に騙され、黒い男が指差した方向を向く。そして黒い男は三馬鹿がバカをやっている内に逃げた。

そして時間が経ち、実技試験。

「くそ、結局カード買えなかった……」

「まあ、使い慣れてるデッキの方がええ時があるやん。ココは幸運だったと、思うのが吉や」

「くう……でも新しい忍者が入ってるのに……。欲しかったヨオ……」

『三馬鹿トリオ！デュエルリングに降りてくるノーネ！』

三人はクロノスの声に従い、デュエルリングに降りていく。

デュエルリング。そこには、クロノス教諭を1ターンで倒した男であり、二之介の親友、国下双牙。試験官をサレンダーに追い込んだ女子生徒、葛木恋歌。そしてまったく情報が無い謎の忍者みみたいな格好をしている男、忍里忍丸。この三人がいた

「元原二之介は国下双牙と、チェコル・マーキシニンは忍里忍丸と、阪神大賀は葛木恋歌とデュエルしてもらおうノーネ！」

「……まさか、双牙とデュエルすることになるとはね。手加減してくれないか」

「当たり前だろ。まあ、今回はインフェルニティは使わないけど」

二人はがっちりと握手を交わし、デュエルディスクを構える。

「デュエル！」

「先行は貰うよ！僕のターン！《切り込み隊長》を攻撃表示で召喚！切り込み隊長が通常召喚に成功したら、手札よりLv4以下のモンスターを特殊召喚する！出て来い！戦士ダイ・グレフアー！」

切り込み隊長が出てくると、剣を天に振りかざすと光の道が現れ、その道を歩いてダイ・グレフアーが現れた。

「カードを一枚伏せて、ターンエンド！」

元原二之介

LP4000

手札3

モンスター 切り込み隊長（ATK1200） 戦士ダイ・グレフ

アー（ATK1700）

魔法罫 ????

「俺のターン！俺は切り込み隊長を召喚！切り込み隊長の効果により、切り込み隊長を特殊召喚！」

こちらの切り込み隊長も、同じ事をして、切り込み隊長が現れる。

（……こつちより、攻撃力が低いモンスターを2体？これで切り込みロックは完成したから、ダイ・グレフアー達は攻撃できない……だとしたら、切り込み隊長同士の相打ち狙いは絶対に無いな。確か、双牙は《二重召喚》を気に入って、どのデッキにも入っていた……。そうか、二重召喚を使って、切り込み隊長2体を生え贄に最上級モンスターを生け贄召喚する気だな。残念だけど、僕の伏せカードは攻撃したモンスターを破壊する炸裂装甲だ。アタックした瞬間、双牙の新しい切り札を破壊できる！）

「俺は切り込み隊長と切り込み隊長でオーバーレイネットワークを構築！」

「お、オーバーレイネットワーク！？なんだそれ！？聞いたこと無いぞ！」

「へっ！そりゃそうさ！この間、見つけた新しい召喚方法なんだからな！見る！これが俺の新しい仲間だ！来い！No.17 リバイス・ドラゴン！」

切り込み隊長達が光り、一つになって行く。すると、フィールドが大きく光り、巨大な蒼い鱗の竜が現れた。

「更に《サイクロン》を発動！二之介の伏せカードを破壊！」

「くっ！流石に分かってたか……！」

「当たり前だろ、何年お前とデュエルしてると、思ってたんだよ。お前のデッキなんて、まる覚えだぜ。続いて、リバイス・ドラゴンの効果発動！オーバーレイユニットを一つ取り除いて、攻撃力を500ポイントアップする！バトル！リバイス・ドラゴン（ATK2500）で戦士ダイ・グレファア（ATK1700）に攻撃！リバイス・ストリーム！」

口にエネルギーを溜め、ダイ・グレファアに標準を合わせる。そして青色の光線を吐き出した。ダイ・グレファアは剣で攻撃を止めたが、パワー負けして、破壊された。

「くっ！こんなの必要経費だ！」（元原二之介LP4000 32

00)

「2枚カードを伏せて、ターンエンド」

国下双牙

LP4000

手札3

モンスター No.17 リバース・ドラゴン（ATK2500）

魔法罫 ????

「僕のターン！ドロー！僕は手札から、収縮を発動！リバース・ドラゴンを指定する。収縮の効果により、指定したモンスターの攻撃力は半分になる！更に僕はダーク・グレファアを通常召喚！バトル・ダーク・グレファア（ATK1700）でリバース・ドラゴン（ATK1250）を攻撃！暗黒斬！」

ダーク・グレファアは大剣を両手に持ち、リバース・ドラゴンに突撃する。リバース・ドラゴンもダーク・グレファアを攻撃するが、パワーが足りず、ダーク・グレファアを破壊できなかった。そしてリバース・ドラゴンを大剣で真つ二つに切り裂いた……が。

「っ！こんくらいノーダメージも同じだ！それにリバース・ドラゴンが残ってる！」（国下双牙LP4000 3550）

「……何で破壊されていないんだ？」

「へッ、No.はNo.でなきゃ破壊できない！さあどつする！二之介！」

「……仕方ない。おろかな埋葬を発動。僕はデッキから、漆黒の

魔王Lv8を墓地に送る。カードを一枚伏せて、ターンエンド」

元原二之介

LP3200

手札0

モンスター ダーク・グレファアー（ATK1700） 切り込み隊長

長（ATK1200）

魔法罫 ????

「俺のターン！ドロー！俺は伏せていた《リビングデッドの呼び声》を発動！効果により、墓地の切り込み隊長を特殊召喚！更に《ブレイドナイト》を通常召喚！そして手札の《スターチェンジャー》を発動！フィールド場のモンスターのレベルを1上げるか、1下げる！俺は切り込み隊長のレベルを1上げる！そしてLv4になった切り込み隊長とブレイドナイトでオーバレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！現れる！希望の光、No.39 希望皇ホープ！」

「またナンバーズか……！」

「これで終わりだ！まずはリバイス・ドラゴンで切り込み隊長に攻撃！JOMNDK（自分の 幼馴染に 負けるなんて ねえ どんな 気持ち）？」

リバイス・ドラゴンの攻撃宣言時、二之介は思わず頬を緩めてしまった。とある罫を発動させると、一枚の鏡が現れ、全ての攻撃が鏡に集まり、全て双牙に跳ね返した。

「なっ!?!？」

「リバースカードオープン！聖なるバリア・ミラーフォース！双牙のフィールドの攻撃表示モンスター全てを破壊する！」

バイス・ストリームが何倍にも膨れ上がり、リバイス・ドラゴン達を破壊する。

「……………くそつ。ターンエンド」

国下双牙

LP3550

手札2

モンスター 無し

魔法罫 無し

「僕のターン！ドロー！メインフェイズ、二体目の戦士ダイ・グレファー（ATK1700）を通常召喚！バトル！ダイ・グレファー（ATK1700）とダーク・グレファー（ATK1700）で攻撃！IJYMNDK（今まで 自分より 弱かった奴に 負けそうに なるなんて ねえ どんな きもち）？」

言葉の頭文字を取って、思いつきり罵倒しているが、これは二之介と双牙の仲だから出来る事である。二人とも、ココまで仲が良くなかったら、間違いなく、馬鹿にしながら、デュエルはしないだろう。因みに、二之介の方が罵倒する文が長いのは、その分、二之介が双牙に嫉妬を抱いている証拠だろう。

「くっ！」（国下双牙LP3550 150）

「よしっ！切り込み隊長で止めだ！」

「この馬鹿！だからお前等は三馬鹿なんて呼ばれるんだよ！手札から、ダイレクトアタック宣言時にバトル・フェーダーを特殊召喚！バトル・フェーダーは相手のダイレクトアタック宣言時に特殊召喚できる。そしてバトルフェイズを終わらせる！」

バトル・フェーダーが時計の振り子を振ると、バトルフェイズの終了を知らず鐘がなる。それを聞いたダイ・グレファアー、切り込み隊長、ダーク・グレファアーは攻撃を中止し、攻撃体制を解いた。

「くっ。ターンエンド！」

元原二之介

LP3200

手札0

モンスター 戦士ダイ・グレファアー（ATK1700） ダーク・グレファアー（ATK1700） 切り込み隊長（ATK1200）  
魔法罫 無し

（手札は0……魔法罫も0……それに比べて、双牙の手札は1枚残っている。気になるのが、なんでダイ・グレファアーの時にバトル・フェーダーの効果を発動させなかったんだ？ライフが多いと発動できないカードがあるのか？その為にわざとダメージを受けたんだな。だとしたら、何かあるんだ？……くそっ。インフェルニティなら、双牙のデッキを丸暗記出来ているのに……。相手は未知のエクシーズモンスター……。もしかしたら、ライフが少ないと、勝利できるモンスターがいるのかも知れないな）

「俺の……ターン！……二之介、俺はギャンブルは嫌いなんだけどよ、一か八か……掛けさせてもらっぜ！通常魔法《貧欲な壺》を発動！墓地のモンスターを5体デッキに戻し、シャッフル。その後、



デッキから2枚ドロ！うっし！俺は二体目のブレイドナイトを通常召喚！更に通常魔法《二重召喚》を発動！俺はこのターン、もう一回、通常召喚が行える！更に俺は《天よりの宝札》を発動！俺は手札が6枚になるようにドロ！する！続いて、切り込み隊長を通常召喚！更に切り込み隊長の効果でレベル4以下のモンスターを特殊召喚する！来い、《デイブレイカー》を特殊召喚！更に《デイブレイカー》の効果発動！デイブレイカーが特殊召喚に成功した時、手札からデイブレイカーを特殊召喚する！二体目のデイブレイカーを特殊召喚！更に二体目のデイブレイカーの効果発動！手札から、三体目のデイブレイカーを特殊召喚！更に手札から、《命削りの宝札》を発動！手札を5枚になるようにドロ！行くぞ！レベル4のデイブレイカー三体でオーバernetワークを構築！来い！新たな希望の光！CNO・39 希望皇ホープレイ！」

一度、ホープが現れたと思うと、ホープが光り輝き、体の一部が黒くなったホープ。CNO・39 希望皇ホープレイが現れた。

「カオス……ナンバーズ？なんだよ……それ？」

「ありがとう、二之介。俺はお前のお陰で、また新しく進化できた。CNO・39 希望皇ホープレイの効果発動！オーバレイユニットを一つ取り除き、ホープレイの攻撃力を500ポイントアップし、相手モンスターの攻撃力を1000ポイントダウンさせる！この効果を三回発動！ホープレイの攻撃力は1500ポイントアップ！そしてダイ・グレファアの攻撃力は3000ポイントダウン！そして手札のZW - 一角獣皇槍をホープレイに装備！ホープレイの攻撃力を1900ポイントアップさせる！バトル！ホープレイ（ATK5900）でダイ・グレファア（ATK0）を攻撃！カオス・ホープ剣スラッシュ！」

「うわあああああああああああああああああ……！！！！」  
元原二之介LP32000)

いつ負けフラグを立てたのだろう。そう考えながら、二之介は倒れた。無論、死んだわけではないが。

そして右隣りと左隣りを見ると、同時に大賀とチェコルが倒れたのが見えた。

そして。

「ううう……女子レッド寮に入る事、確定しましータ……Damn  
……！！」

「まあ仕方ないよ。もう諦めよう。いいじゃないか、仲の良い三人が同じ寮に入れたんだから……だからって……畜生……カオスナンバーズってなんだよ。あんな効果、反則じゃねえか……」

「わいなんて、真紅眼シリーズのモンスターフル揃いで1ターンキルやで……」

「ワタシはナンバーズとか言う、ふざけたモンスターにやられましたータ……」

「はははは……僕なんか、その進化形態だぞ？僕の方が酷いやられかただよ……」

そして三人は決意した。もうあいつらとデュエルしねえ……と

そして数日後、レッド寮では。

「見よ！コレが変化の術ヨ！」

「くそっ！カ ビィウザイ！」

「わいの事も忘れるな！」

三馬鹿は仲良く、スマブラをやっていたのだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1071x/>

---

遊戯王GX 変態と呼ばれるモンスターを巧みに操る男

2011年10月12日14時46分発行